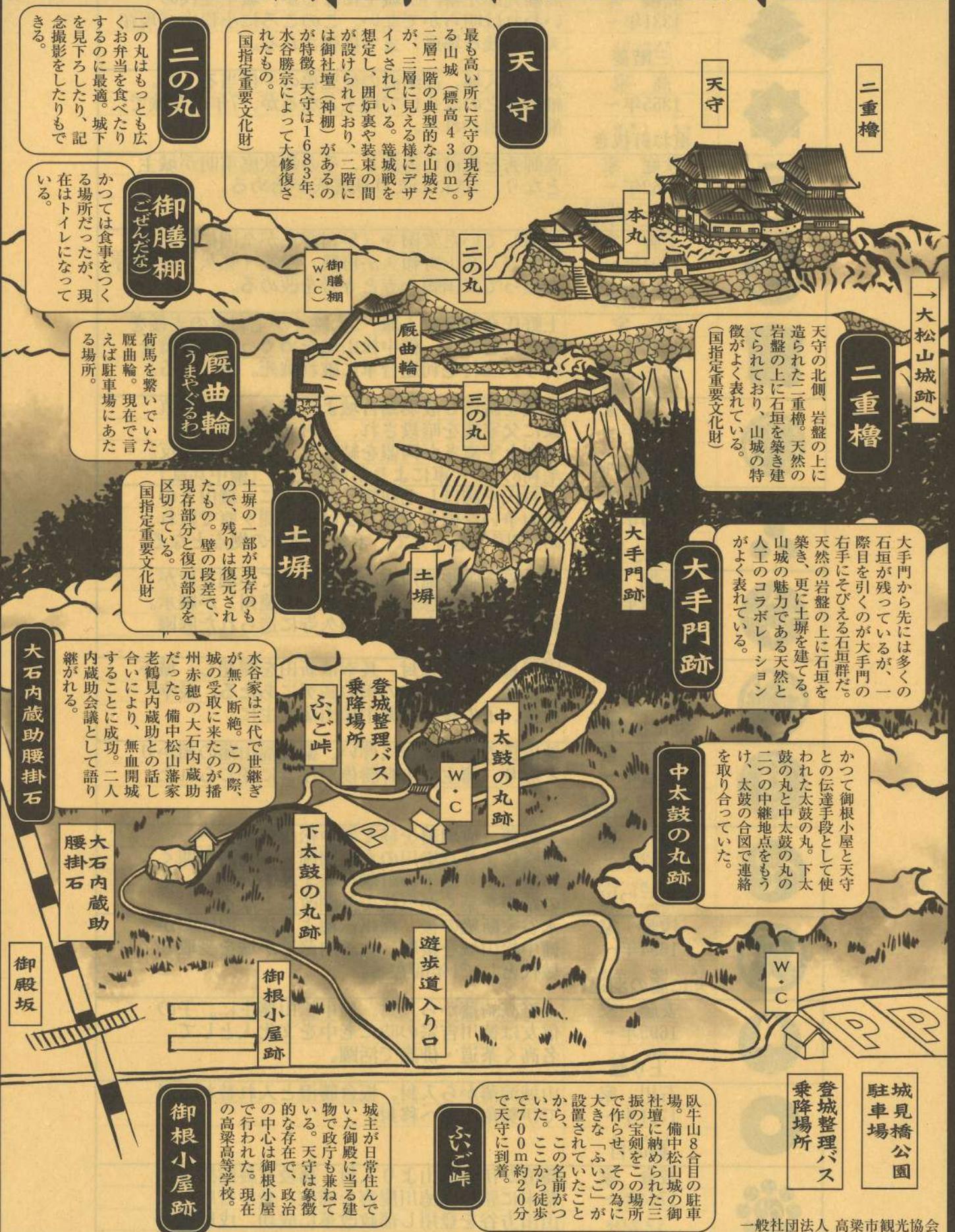


天守が現存する
唯一の山城

備中松山城

登城絵図



二の丸
二の丸はもつとも広くお弁当を食べたりするのに最適。城下を見下ろしたり、記念撮影をしたりもできる。

天守
最も高い所に天守の現存する山城(標高430m)。二層二階の典型的な山城だが、三層に見える様にデザインされている。籠城戦を想定し、閉居裏や装束の間が設けられており、二階には御社壇(神棚)があるのが特徴。天守は1683年、水谷勝宗によって大修復されたもの。
(国指定重要文化財)

二重櫓

天守

本丸

→大松山城跡へ

二重櫓

天守の北側、岩盤の上に造られた二重櫓。天然の岩盤の上に石垣を築き建てられており、山城の特徴がよく表れている。
(国指定重要文化財)

御膳棚
(ごぜんだな)
かつては食事をつくる場所だったが、現在はトイレになっている。

御膳棚

厩曲輪
(うまやぐるわ)
荷馬を繋いでいた厩曲輪。現在で言えば駐車場にあたる場所。

厩曲輪

土塀
土塀の一部が現存のもので、残りは復元されたもの。壁の段差で、現存部分と復元部分を区切っている。
(国指定重要文化財)

土塀

大手門跡

大手門跡

大手門から先には多くの石垣が残っているが、一際目を引くのが大手門の右手にそびえる石垣群だ。天然の岩盤の上に石垣を築き、更に土塀を建てる。山城の魅力である天然と人工のコラボレーションがよく表れている。

大石内蔵助腰掛石

水谷家は三代で世継ぎが無く断絶。この際、城の受取に來たのが播州赤穂の大石内蔵助だった。備中松山藩家老鶴見内蔵助との話し合いにより、無血開城することに成功。二人内蔵助会議として語り継がれる。

ふいご峠

登城整理バス
乗降場所

ふいご峠

中太鼓の丸跡

W・C

中太鼓の丸跡

かつて御根小屋と天守との伝達手段として使われた太鼓の丸。下太鼓の丸と中太鼓の丸の二つの中継地点をもうけ、太鼓の合図で連絡を取り合っていた。

大石内蔵助腰掛石

下太鼓の丸跡

遊歩道入り口

W・C

御根小屋跡

城見橋公園
駐車場

登城整理バス
乗降場所

御根小屋跡

城主が日常住んでいた御殿に当る建物で政庁も兼ねている。天守は象徴的な存在で、政治の中心は御根小屋で行われた。現在の高梁高等学校。

ふいご峠

臥牛山8合目の駐車場。備中松山城の御社壇に納められた三振の宝剣をこの場所で作らせ、その為に大きな「ふいご」が設置されていたことから、この名前がついた。ここから徒歩で700m約20分で天守に到着。

歴代城主 家紋一覧

	秋庭 家 1240年～ みつ ひきりょう 三つ引両	1240年承久の乱で戦功のあった秋庭三郎重信が地頭としてこの地に赴任。臥牛山大松山に砦を築く。これが備中松山城の歴史の始まりになる。
	高橋 家 1331年～ さんかいひし 三階菱	高橋九郎左衛門が城主になるが、城主交代のいわれは明らかでない。このころに小松山（現在天守が残る場所）まで拡張される。
	高 家 1355年～ かさ くぎぬ 重ね釘抜き	高師秀入城。高師直の従兄弟の子に当る人物。細川頼之の計らいで城主となるが、7年の在城で備前に追われる。
	秋庭 家 1362年～ まる みつ ひきりょう 丸に三つ引両	高師秀を備前に追放し、その後秋庭重明が城主となり、5代にわたり秋庭氏が治める。
	上野 家 1504年～ みた ひきりょう 二つ引両	荒廃していた安国寺（足利尊氏が全国に建立させた寺）を上野頼久が再興。没後「頼久」の2文字を取って安国頼久寺と寺号を改める。
	庄 家 1533年～ ぐんぱい うちわ 軍配団扇	上野氏を滅ぼし入城。2代続くが毛利家の支援を得た三村氏と、備中松山城をめぐる争奪戦を行う。三村毛利連合軍に破れ戦死。滅亡する。
	三村 家 1566年～ まる に けんかたばみ 丸に剣方喰	庄氏を滅ぼし成羽鶴首城より移る。宇喜多直家に父家親を暗殺され、三村元親が城主に。毛利と宇喜多が同盟を結ぶと、毛利から離反。毛利8万の大軍により落城する。（備中兵乱）
	毛利 家 1575年～ いちもんじ み ほし 一文字に三つ星	三村氏を滅ぼし毛利輝元が城主に。織田との勢力争いを備中で繰り広げる。関ヶ原で敗れ、防長2国に退くまで、毛利の備中の拠点となる。
	小堀 家 1600年～ はなつみしつ ぼうはなかく 花付七宝花角	関ヶ原合戦後徳川家の代官として小堀正次が入城。正次の急死により政一（遠州）が継承。城と御根小屋を修築。頼久寺に造られた庭園は遠州によるもの。
	池田 家 1617年～ まる に あげ はちょう 丸に揚羽蝶	因幡鳥取より入封。長幸は新田を開発し、城下を拡張。池田輝政の弟の長男にあたる。長幸死後、子の長常が備中松山藩城主に。
	水野 家 1641年～ まる に にほんおもだか 丸に二本澤瀉	池田氏の無嗣除封に伴い、備後福山藩の預かりとなり、藩主の水野勝俊が在番に任じられた。
	水谷 家 1642年～ ひだり みつ どもえ 左三つ巴	下館藩、成羽藩を経て備中松山藩城主へ。勝隆により高梁川の水路開削、玉島港を開く。勝宗により城下の町割を整え城を大修復。藩の基礎を築くが三代で無嗣改易となる。
	浅野 家 1694年～ まる たか はちが 丸に鷹の羽違い	水谷家断絶の後、播州赤穂より浅野内匠頭が備中松山城を接取。大石内蔵助が城を受取り城代として1年間在番。
	安藤 家 1695年～ のぼり へし 上り藤	上野高崎藩から入封。備中松山藩主に。子の信友は徳川吉宗の時に老中を文化人として名高く茶道・俳諧で活躍。
	石川 家 1711年～ じゃのめ 蛇の目	山城淀藩から入封。板倉勝澄と入れ替わる形で伊勢亀山藩へ移封。
	板倉 家 1744年～ くようどもえ 九曜巴	勝澄が伊勢亀山より入封。藩校有終館設立。幕末に勝静は徳川慶喜を補佐。老中首座へ。山田方谷を登用し藩政改革に成功。戊辰戦争では朝敵とされるも慶喜と行動を共にする。